

■塩ハマ子 教育行政官。〈敗戦〉後、婦人教育行政を主導した。
しおはまこ
明治天皇没・1912＝ 秋田県横手に生れる。塩俊吉・サキの次女。

生母死去により義母みつを迎える。

原敬首相暗殺1921＝ 9歳： 兄姉妹が若くして死去したため、甥を養嗣子とし、義母の晩年を介護する。

教育者で社会教育的なことに熱心だった父の考古学への傾倒から樺太に渡ることで、

共産党事件・1928＝16歳： 樺太庁豊原高等女学校卒業。
世界恐慌・1929＝17歳： 同高女補習科修了、以後、14年間樺太で小学校教員をつとめる。
海軍軍縮条約1930＝18歳：
満州事変・1931＝19歳：

日中戦争始・1937＝25歳：

第二次大戦始1939＝27歳：

日米開戦・1941＝29歳： その間、母親学級をつくり、{教師とおかあさんの研究集会}を開いて注目され、

年金+総武装 1944＝32歳： 上京し、大日本青少年団本部書記・錬成局女子部に勤務を経て、
敗戦・1945＝33歳： *文部省国民教育局に入り、敗戦後、同省学校教育局に移る。

新憲法施行・1947＝35歳： 文部事務官となり、
極東裁判決・1948＝36歳：

大臣官房人事課適格審査室勤務を経て、
独立回復・1951＝39歳：
メデー事件・1952＝40歳： 社会教育局社会教育課に移り、

なべ底不況・1957＝45歳：

安保闘争・1960＝48歳：

全国総合計画1962＝50歳： *同局婦人教育課長となり、

いざなぎ景気1966＝54歳：

20年間にわたり婦人教育行政に携わって、

ドルショック・1971＝59歳： *退官。以後も総理府婦人問題企画推進会議委員として国策に関わりながら、

石油ショック1973＝61歳：

クランプール事件1975＝63歳： 財団法人日本女子社会教育会常務理事となり、

成田衝突・1978＝66歳： 「国内行動計画と婦人の学習資料」シリーズ始め、

・1981＝69歳： 「国連婦人の十年と婦人の教育活動」。「婦人問題からみた現状と課題」シリーズ始め、
中曽根内閣・1982＝70歳： 勲四等宝冠章を受章。

・1984＝72歳：
ジャンボ機墜落1985＝73歳： 「婦人の地位と婦人問題」。「婦人問題からみた現状と課題」シリーズがNo.5で終了、
バブル始・1986＝74歳： 「国連婦人の十年の歩みと課題」。「国内行動計画と婦人の学習資料」シリーズがNo.10で終了したほか、

婦人問題関係資料(5冊)を編集刊行、月刊{女性叢養}の刷新をはかるなど精力的に活動して、

ソ連崩壊・1991＝79歳： 没した。